

オープン カレッジ

2026年2月10日に愛知県主催の「観光まちづくりアワード」の最終審査で、椋山女学園大学現代マネジメント学部が、中部国際空港(セントレア)やAichi Sky Expo(愛知県国際展示場)にパチンコを設置し、待ち時間などで楽しんでもらうことでカジノに代わるIR(統合型リゾート)の施設とし、MICEを誘致する提案で奨励賞を受賞した。ラスベガスの空港にスロットマシンが設置されていることをヒントに、名古屋はパチンコ発祥の地と関連す

20年目迎えた中部国際空港の活性化

残ることで愛知・名古屋の知名度を向上させることを目指した。

中部国際空港は05年の愛知・地球博(2005年日本国際博覧会)の開催に合わせ開港し、25年に20周年を迎えた。中部地方の国際空港として大きな期待を受けて開港したが、現在は首都圏と関西圏の巨大ハブ空港である羽田・成田・関西の各空港や地方空港への国際線の乗り入れの増加で競争が激しくなっている。製造業の輸出拠点としての役割も期待されたが、貨物便に関しても便数の多い他の国際空港の利用が増加している。

コロナ禍後のインバウンドは日本全体では回復しており25年は約4268万人で過去最高を記録したが、

愛知・名古屋の観光はやり尽くされた感があるが、冒頭で述べたパチンコのようになんか新しい観光資源は発掘できる。パチンコを「名古屋でのストーリー化」やキャラクタービジネスとして展開してオリジナリティのある観光資源とすれば、ラスベガスが「ディステイネーション」(目的地)であるのと同様に、名古屋を目的地にできる。

26年9月、10月にアジア大会・アジアパラ大会が開催される。建設費の高騰で選手村はクルーズ客船をホテルシップとして活用する。クルーズ客船にはカジノがあるが、それに代わる「パチンコ」を選手村に設置すれば、「名古屋にしかないもの」としてSNS(交流サイト)で瞬く間に拡散する。思い切った「レガシー」を残すことが中部国際空港、さらには中部圏全体の観光振興に貢献する。

アジア大会による 「レガシー」形成を

る企業も多く、庶民の手軽な娯楽として市場規模も大きいことに着目したもので、インバウンドの印象に



椋山女学園大学
現代マネジメント学部准教授
水野 英雄

みずの・ひでお 専門は国際経済学、経済政策、観光経済学。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学。

その入口は東京と京都・大阪を結ぶ「ゴールデンルート」の両端の羽田・成田・関西の各空港であり、中部圏は場合によっては素通りされる。この傾向が特に顕著なのが欧米豪のインバウンドであり、成田や羽田から入国し、新幹線で名古屋を通り過ぎて京都・大阪へ向かう流れが定着している。「中部国際空港から入るメリット」を明確に打ち出せない限り、状況は改善